

第2回3月11日知事メッセージ起草委員会 主な意見

日時 令和2年2月3日（月）14:00～15:00
場所 応接室（本庁舎2階）
出席者 委員長：知事
委員：小野広司、菊池信太郎、鞍田炎、佐々木孝司、蜂須賀禮子、
本多環、横田純子（50音順）
事務局 企画調整部 佐竹部長、橋政策監、企画調整課 高橋課長、
佐藤主幹、渡邊主任、佐藤主査、佐藤主事、堀切主事

1 全体的な趣旨等について

- ・時の流れとして大切なものが3つ。一つは「これまで」、過去。2つめは「これから」、未来。そしてそれらを踏まえた上での「いま」、現在。まず、これまでの9年間、東日本大震災、原発事故以降の9年間を振り返ること、顧みること。その上で、これからの5年間、10年間、20年間、ふくしまの未来を考えること。それらを踏まえた上で今を捉えるということが大切。
- ・メッセージとして出た時に心に刺さるものが足りない。県外の人への印象に残るか。海外への発信が重要と言っている中でどのように受け止められるか。
- ・同じ地域の中でも今度の3月11日を水曜日だなど通り過ぎる人もいれば、「3.11」だなどと思う人もいる。普通に通り過ぎてしまう人たちに何か残る、刺さるメッセージがどこかにあると良い。
- ・日本全体で様々な災害があつて、どんどん過去のことになっていって、まだまだ支援が必要であるところもあるのに、「もういいのではないか」となりつつある現状を世の中の人にもう少し伝えた方が良いのではないか。
- ・本当は語りたけれど語れない、という人がたくさんいる。何年後に語れるか分からない。20年後かもしれないし、50年後かもしれない。そういう方々が、いつか話してくれるのを待つというのはとても重要なことだと思う。
- ・昨今のニュースでは差別的なことが報じられるが、それはだめだと言えるのも私たち。「一人一人が大きな花を咲かせ」とあるが、大事なのは「一人一人の彩りで咲けば良い」ということ。
- ・（関連表現）「一人一人が持っている色の花」という表現を自分は使っている。
- ・（関連表現）「個性豊かな花」ではどうか。
- ・このメッセージは人の情感、知事の想いがあつてこそ皆さんに届く。それには言葉の強さではなく、心の強さがあるとよいと思う。
- ・震災後に生まれた子どもたちは、お母さんが震災の話をする時、皆「怖い」「そんな話聞きたくない」という風になってしまう。しかし、乗り越えたからこそ今その子どもたちがいる。やはり伝えていくのは我々だけではなくて、福島に住んでいる人だったり関係する人。それぞれ自分で周りに伝えていきなさいということをメッセージで言っても良いのではないかと思う。
- ・県の行政としてみんなを見ているというメッセージが出ると良い。

2 構成について

- ・避難区域から避難して20歳になってもなかなか自立ができなくて困っているという子がいる現状がある。その一方、「ぼく農業やりたい」という小学生の男の子がいて、それは復興のためだとか震災があったからということではなく、本当にその子の日常的な夢から「農業」という言葉になったということに、10年経つんだなと感じている。今の現状が冒頭に書かれていた後、今一度福島県民がこれほど辛い思いをしたんだということをもう少し泥臭く伝えてもいいのではないか。
- ・オリンピックの記載が冒頭にあった方がよい。その中で、福島はこういう関わりをしている、福島はオリンピックでこんなことをやっているということを伝え、その次に、とはいえやはり9年経っても辛い人がいる。それを泥臭く表現してもよいと思う。9年経っても学校に行けない子がいるとか、風評被害とか言葉ではなく現実的にこういうことがあるんだということを具体的に一つ入れることによって、「地に着いたことば」になると思う。そのために、県内の方々の言葉（引用）を拾っても良いのでは。

3 表現について

- ・「記憶の風化」とあるが、風化しているのは「関心」。「関心」が風化していて、風化の影で様々なイメージが固定化しているということではないかと思う。
- ・断定するのを控えたところがあるのと、一つの文章として長いこともある。「強さ」というのは、事象に対してどこまで強く表現するのかという問題と、表現上どのように表現するのかという点の2つあると思う。内容的な強弱の議論はあると思うが、表現に関してはもう少し明確な言い方をすると印象が変わると思う。ポエム的な文章であるところに具体的なこと（帰還困難区域の解除、双葉IC、伝承館）を入れ込んではどうか。メリハリを効かせる必要がある。
- ・どれだけ鋭いエッジの効いた言葉にすればいいのか。例えば直近でエッジが効いているのは「グレタさん」の言葉。風評については、相手に届くようにするために例えば怒鳴ったほうがいいのか、あるいはグレタさんのようにエッジを効かせたらいいのか、あるいは他の第3の道があるのか悩ましい。
- ・ミルクの引用のように、知事という言葉として言うのではなく引用を使用することで伝わることもあると思う。
- ・知事がいつも話していることをそのままメッセージにということ。ラブレターと同じで、誰かを想像して綴るということも大事。
- ・「一歩ずつ復興への歩みを進める中で」は、「復興・創生を進める中で」のほうが良い。

4 県民等の声について

- ・湯本高校の生徒さんの言葉で「世界に発信、福島県はもっと輝きさらに活気溢れていくという」趣旨のものがある。未来に発信、世界に発信することを頭の中に入れてもう少し考えていただきたいと思う。
- ・大熊町の新成人の「大熊に戻って働きたい」、聖火ランナーの葛尾の佐久間亮次さんの「ミルクを飲んでもらいたい。」など、心から応援したいと思う言葉だ。